

行政視察報告書

令和 7 年 11 月 25 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 兼本 光治

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年11月5日（水）～令和7年11月7日（金）
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事務局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員1人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員2人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課（課長・ほか職員2人）・農業振興・イノシシ等対策担当（課 長・ほか職員2人）
7. 概要及び所見	※写真など挿入可。
① 福岡県北九州市 門司港レトロ地区について	
<p>門司港レトロ地区人口2008年から2024年（16年）で17.5パーセント人口減少が高く、困難を極めた中、レトロ計画2つの再開発案を策定し、港を活用した観光地の整備・港の埋立・売却を基本理念とし、衰退する門司港の活性化、財政状況のひっ迫から、国からの補助金により危機回避に努める。</p> <p>事業内容として、歴史的建造物の保存や移築により、滞在時間や、飲食販売施設の不足、駐車場、トイレ不足の課題に取り組んだ。</p> <p>民間と連携した取り組みとして 関門海峡花火大会、門司みなと祭り、門司港グランマーケット門司港レトロ地区の活性化を図る。</p> <p>うるま市においても、観光地の整備等に取り組む中、門司港レトロ地区の課題である</p>	

、滞在時間が短く通過型飲食物販施設の不足、駐車場、トイレ整備課題を参考にし、うるま市観光行政の参考にできないか。

② 福岡県北九州市

北九州市エコタウンセンターについて

北九州市エコタウン事業は、市民サービスの向上、管理運営の効率化を事業の推進強化を目的で、効率的な運営、経費削減、効率的な広報活動を専門的に取り組む。

北九州市が公費で建設費（約11億円）予算化し、指定管理者制度を採用する。

北九州市から、指定管理として（約7千万円）管理料で、現在、25社27事業が集積し事業展開している。

うるま市においても、州崎工業地帯を、市民に広く広報活動ができないか、今後の課題を図れないか。

③ 福岡県福岡市

福岡市の農業政策について

スマート農業マッチングプロジェクトについて

令和4年度から令和8年度、5年間の施策の方向性で、目標、意欲ある担い手への支援育成と、農業の魅力発信による農村地域の活性化を掲げる。

課題

- ・市内農家の課題やニーズと既存のスマート農業のミスマッチ
- ・スタートアップ企業がスマート農業にチャレンジする

目指す姿

- ・市内農家の課題やニーズにあったスマート農業技術とのマッチングする仕組み。
- ・スタートアップ企業のチャレンジを後押しする環境が整備。

うるま市においても、持続可能な農業生産を未来へつなぐために、生産基盤の維持管理、経営の安定化、担い手育成、市内生産農産物ブランド化消費拡大を推進する。

令和7年度・市民経済委員会行政視察においては、全国的なクマ被害の報道がある中で、福岡市の農業振興は、クマ被害ではなく、イノシシ対策が深刻で、令和5年度の予算額の2倍額を執行し、イノシシ駆除に取り組み、駆除頭数が2千頭を超えると説明がありました。

うるま市においても、イノシシ目撃情報や、農産物の被害状況がある中で、農振地域情報や、繁殖状況等を把握し対策等を取る。

行政視察報告書

令和 7 年 1 1 月 2 5 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 高屋 優

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和 7 年 1 1 月 5 日 (水) ~ 令和 7 年 1 1 月 7 日 (金)
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員 長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委 員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事 務 局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員 1 人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員 2 人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課 (課長・ほか職員 2 人)・農業振興・イノシシ等対策担当 (課長 ・ほか職員 2 人)
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>

1 門司港レトロ地区(北九州市)

門司港レトロは、歴史的建造物群と港湾景観を一体的に保存・活用し、観光拠点化に成功した事例である。専門部署(約9名体制)がエリアマネジメントを担い、民間団体や事業者と連携しながら年間多数のイベントを展開、にぎわい創出と地域経済効果を生み出している。行政は景観・インフラ整備やルール形成に注力し、ソフト事業は民間主導とする役割分担が明確で、公民連携による持続可能な運営モデルとして示唆に富む。



2 北九州エコタウン

若松区響灘地区の埋立地を活用した北九州エコタウンは、かつての公害経験を教訓に、3R推進と都市鉱山の概念を具体化した環境産業集積拠点である。国認定エコタウン第1号として、リサイクル工場や再生可能エネルギー関連施設が立地し、廃棄物削減、最終処分場延命、技術輸出、人材育成など、多面的な成果を上げている。住宅が少ない工業専用地域を選定したことで、風力発電等の導入もしやすく、計画的土地利用と環境政策を両立するモデルとなっている。



3 福岡市スマート農業政策

福岡市は「おいしい食」を都市のブランド価値と位置付け、都市近郊農業を守り育てる戦略を展開している。JA・九州大学・スタートアップ等と連携し、生産者の課題を起点としたスマート農業マッチング事業を実施。実証フィールドや補助制度を通じて、環境制御、ドローン、防除・草刈りロボット等の技術導入を後押しし、省力化と高付加価値化、新規就農支援を図っている。全てが即時に所得向上へ直結しているわけではないが、「試せる場」と「伴走支援」の仕組みを構築している点が特徴である。



所見(うるま市への活用)

うるま市においては、①勝連城跡・海中道路周辺に専門部署によるエリアマネジメント機能を設け、民間主導イベントやナイトコンテンツを誘導し、滞在型・回遊型観光を確立すること、②埋立地や工業地域を環境関連産業・資源循環拠点として位置付け、北九州エコタウン型の脱炭素と雇用創出を同時に追求すること、③JA、大学、民間企業と連携したスマート農業実証・マッチング制度を創設し、若者就農支援と農業所得向上、地産地消・観光との連携を強化することが重要である。本視察の知見を、うるま市の持続可能な産業・観光・農業政策の具体的施策として反映すべきと考える。

行政視察報告書

令和 7 年 11 月 23 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 伊礼 正

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年11月5日（水）～令和7年11月7日（金）
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事務局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員1人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員2人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課（課長・ほか職員2人）・農業振興・イノシシ等対策担当（課 長・ほか職員2人）
7. 概要及び所見	市民経済委員会 行政視察報告書 令和7年11月5日～7日 令和7年11月6日 午前9時30分～11時 (1) 門司港レトロ地区について ○質問事項として ①レトロ地区の概要・実績・課題・今後に展望について ②地域観光再生とインバウンド対策について ③門司港全体で、来訪者の滞在の長時間化への市の積極的な取り組み方法 ④旧JR九州本社ビルを観光促進に活用されている事例について ⑤私有地を活用した宿泊施設を有する集客施設の開発計画について ⑥上屋跡地を活用したウォーターフロント開発（宿泊割合や中心部と、その周辺との回 遊性・課題や取り組みについて ⑦門司港地域複合公共施設整備事業のコンセプト・経緯・建築財源について

⑧門司港レトロ地区臨海部開発事業における、宿泊と商業施設が一体となった地上10階建ての建物について、事業のコンセプト・経緯・建築財源について伺う。

⑨誕生する新ホテルと商業施設、そして駅前に集約される便利な公共施設が完成することで、街を点と線、面として一帯での地区開発で観光や集客力がアップしているかどうか、市民の満足度等について

*個別の質問事項について、逐一説明はなかったものの、全体的に内容の濃い有意義な意見交換となった。



視察 令和7年11月6日 午後2時～午後4時30分

(2) 北九州市エコタウンセンター

*自動車のリサイクル工場見学・OA機械のリサイクル工場見学・洋上風力発電の見学後にエコタウンセンターの説明・質疑応答を行う。

①北九州市エコタウンセンターの概要・建設・運営における財源と予算について伺う
回答として

*建設は北九州市が公費で建設する(3建屋 約11億円)

②企業立地の後に北九州市エコタウンセンターが建設されたのか、北九州市エコタウンセンター立地後に、企業が集まって一体が開発されたのか伺う。

回答として

*大学研究施設やリサイクル工場数社が先ず立地した後に、見学者が多数訪れて、その対応の為にエコタウンセンター建設が必要となり建設に至る・その後多くのリサイクル工場が立地した。

③エコタウン事業の概要・リサイクル関連企業の集積について伺う

*回答として

現在25社27事業が集積、展開している。又エコタウン事業を始めるにあたり、土地地権者である、新日鉄と北九州市とで誘致により現在の集積となっている。

④各地区(総合環境コンビナート・響リサイクル団地・響灘東部地区)での企業取組と市が事業への後押しなど特別実施しているのか伺う

*回答として

エコタウン企業認定を市が行う等ブランド価値を与えている、又、エコタウン事業草創期は、立地に際しての補助金を市が拠出した。

⑤環境学習拠点としてパネルや展示品見学者の人数推移について伺う。

*回答として

年間約10万人の見学者を迎えている。2025年5月時点では累計218万人となっている。

⑥次世代エネルギーについて(概要・脱炭素・エネルギー関連の企業の集積)伺う。

*回答として

2007年に第1号認定(概要説明パンフに含まれています)。

⑦見学コース(エコタウン事業と次世代エネルギーパーク)の其々の役割・実績について

て伺う。

*回答として

エコタウン工場見学・エネルギー施設見学ともに、実際に現地を視察可能が、当センターの魅力である。工場見学は曜日ごとに決まっている。概要説明もエコタウンコース・エネルギーコースに分かれていて、エコ:エネ□6:4である。

⑧市民の声・イメージ戦略について伺う。

*回答として

北九州市エコタウンには国内外から毎年延べ10万人が視察に訪れている。施設利用者のアンケートでも、ほぼ100%の見学者が満足していて、今もなお高い関心を集めていて、環境意識の高まりやイメージ向上に大いに貢献している。

⑨キャラクター設定や事業取組への影響を伺う。

*回答として

平成23年に環境モデル都市の取り組みを盛り上げる為に、「親しみやすく・愛着の持てる」環境マスコットキャラクターを決定した。そのひとつが「ていたん」…名前の由来は低炭素社会。又、ていたんのお友達として「ブラックていたん」が誕生した。各イベント等に赴き愛着のあるキャラクターとして愛されている。



視察

(3) 福岡市農業政策の【スマート農業マッチングプロジェクト】について伺う。

①農作業の効率化や省力化、生産向上を図るスマート農業の推進のため、市内生産者の課題やニーズと器具の技術やアイデアのマッチングプロジェクトを始めた経緯について

②当初より就農者割合が多いのか、政策後に就農者は増加しているのか、又農家の収入は増収しているか。

③ほ場の畝間の拡大が重要だと考える。市がほ場の畝の整備に取り組まれているのか伺う。

④均平化や合筆、枕地の確保における市の取り組みや困難事例などはなかったか？又、農家間の協力体制や休耕地の利活用について伺う。

⑤作期分散、出荷の見直し等、農家が直面する課題はないか？

⑥スマート農業技術に適した生産方式への転換が重要であるが、農家との連携はどの様にされているのか伺う。

⑦草刈りロボット、リモコン草刈り機、ドローンなど高齢農家の支援に利活用されているのか伺う。

⑧生産方式革新事業活動を促進するにあたり、就農者への理解説明はどの様に進められたのか？

⑨農業・畜産における其々の成功事例について。又実証実験から成功事例と、実証実験後に取りやめた事例について伺う。

それらの質問に回答はなし。うるま市と福岡市では農業の規模の大きさに違いがあり、うるま市においてスマート農業プロジェクトは農地の広さによるものと考えている。福岡市のスマート農業プロジェクトで、うるま市に参考になる取り組みを検証して、今後のうるま市就農者の生産向上に生かしていけるよう祈念する。



行政視察報告書

令和 7 年 1 2 月 5 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 大 城 直

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和 7 年 1 1 月 5 日 (水) ~ 令和 7 年 1 1 月 7 日 (金)
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員 長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委 員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事 務 局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員 1 人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員 2 人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課 (課長・ほか職員 2 人)・農業振興・イノシシ等対策担当 (課長 ・ほか職員 2 人)
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>

市民経済委員会行政視察報告書

大城 直

1. 福岡県北九州市→「門司港レトロ地区」について(11月6日)

【取組】

・門司港は1915年頃は漁村であったが、その後日本を代表する貿易港と栄えたため、新たな交通インフラが整備されたが、徐々に貿易港としては廃れていき、港としての役割を喪失し、門司港地区を活用して観光地の整備や港の埋め立て・売却で衰退する門司港の活性化に取り組んだが、計画はうまくいかず財政状況がひっ迫し国からの補助金により危機を回避したのちに、第1期計画(1988年~1994年)で事業を開始し、門司港地区に多くあった古い建物を利用して観光資源として活用し、1995年には観光客107万人となりましたが、課題として、①滞在時間が短く通過型、②飲食物販施設の不足、③駐車場、トイレ不足があがり、続けて第2期計画を(1997年~2007年)実施し、観光施設(物産館、展望室、ミュージアム)その他トイレ、駐車場、遊歩道等を整備し、民間にはホテル、商業施設、九州鉄道記念館等を整備して頂いた。

【所見】

第1期計画、第2期計画で公共事業費420億円、民間事業費143億円の総事業費を投入し現在では観光客が220万人を超えているようである。

門司港レトロ地区は街全体がミュージアムと言えるほど雰囲気づくりされていて、とても素晴らしい街に仕上がっていました。また、土日には出店もオープンし、祭りの雰囲気を楽しめるよう工夫しているとの事。

うるま市では大型事業計画は難しいと思うが、小規模での工夫と雰囲気づくりは参考にすることが可能と思います。

2. 福岡県北九州市→北九州市エコタウンセンターについて(11月6日)

【取組】

① 車のリサイクルセンター見学→自動車解体工場

・車の部品を部位、メーカーごとに収納されている倉庫を見学後、隣接された自動車解体工場を見学、使用可能な部品などを外した後鉄の塊にする工程を見学。

② O A機器リサイクル見学

・使用済みのO A機器（コピー機、ファクシミリ、プリンター、パソコン）を分解して、新たな機器の部品やプラスチック、アルミ、鉄などにリサイクルしている。

③ 洋上風力発電機、陸上風力発電機見学

・北九州響灘に設置された洋上風力発電機（25基）を見学、陸上風力発電機を近くまで行き見学、説明を受ける。

④ 北九州市エコタウンセンターにてレクチャー

・1901年に国内初の溶鉱炉を持つ官営八幡製作所が北九州市で操業開始し、日本の四大工業地帯として高度成長を支えてきたが、その一方で、1960年代に深刻な公害問題が表面化し、「汚れた洞海湾、煙に覆われた空」と言われ、市民、企業、自治体が一体となり公害問題に取り組む、改善した。

【初見】

・北九州市響灘地区を埋め立てて、エコタウン事業を生きた教材として活用する環境学習拠点として、2001年6月に北九州市エコタウンセンターを開設。

ここでは、エコタウン事業やリサイクル工場見学を通し、エコ活動の大切さの周知に取り組んでいる。

1960年代の公害問題があった頃の写真と改善された現在の写真を参考に取組を伝えているなど、エコタウン事業の継承も大切である。

3. 福岡市→「農業政策」「スマート農業マッチングプロジェクト」について(11月7日)

【取組】

① 福岡市の農業政策について

・福岡市の特徴は都心部を中心に海や山に囲まれコンパクトな市街地を形成しているため都市と農業が近いので、果実や野菜と花卉類の出荷に恵まれている。

② スマート農業マッチングプロジェクトについて

・福岡市のスマート農業の取組については令和元年より5件の農家農場で実証実験の事業を開始し、事業者、農家・JA、大学、普及指導員等による実証実験フルサポート事業のフィードバックや市内農家へのPRや機械による薬剤散布などの実証実験を重ねて、令和5年に九州大学の岡安教授をオブザーバーに「スマート農業推進協議会」を設立し、令和6年度にマッチングプロジェクトがスタートした。

【初見】

・福岡市の農業政策の課題として、イノシシ等の対策があり、年間に約2000頭のイノシシ駆除を行いつつ農業振興を進めなければならず、近隣のハンターと契約し駆除しているとの事です。

・スマート農業マッチングプロジェクトを進めるにあたって、作業効率を上げるため民間の力を活用し、全国からスマート技術・アイデアを募集し構築！

・市内農家とスマート農業企業のマッチングプログラムとして、マッチングイベントを開催し、企業の技術紹介、市内農家と企業の交流会、チャレンジ農園プログラム参加企業の採択式を開催し、市内農家とスマート農業企業等15社、約80名が参加し、7割の方が満足したとの回答があった。

・他にも、農園でのチャレンジ農園プログラムの実証実験を今年も開催し、生産性の向上につながるラジコン草刈り機の活動に取り組むなどの新しい技術を取り入れている。

。

行政視察報告書

令和 7 年 11 月 15 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 _____ 玉城 政哉 _____

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和7年11月5日（水）～令和7年11月7日（金）
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事務局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員1人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員2人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課（課長・ほか職員2人）・農業振興・イノシシ等対策担当（課 長・ほか職員2人）
7. 概要及び所見	※写真など挿入可。
福岡県北九州市「門司港レトロ地区について」 北九州市門司港レトロ課 ○門司港レトロの位置 JR小倉駅から電車で13分 北九州空港から車で約40分 ○門司港レトロの範囲 九州の北端に位置する (レトロ)門司港駅を中心に広がる地域 (和布刈)風光明媚な関門橋のすぐそば ○門司港レトロ地区の人口 2024年 8719人 ▲17,5% 毎年人口が増えている傾向がある ○門司港レトロ事業までの経緯	

漁村と塩作りの小さな村～日本を代表する国際貿易港～新たな交通インフラ整備～

港としての役割喪失

○門司港レトロ事業の「これまでの経緯」

① 港を活用した観光地の整備

② 港の埋立・売却

事業期間 1988年～1994年

事業費 約295億円

1995年には門司港地区が「門司港レトロ」という新たな名称でオープン

観光客107万人

2007年には観光客220万人が訪れる

民間と連携した取り組み

北九州市(公共)

(ハード) 門司港開発株式会社

(ソフト) 門司港レトロ倶楽部 民間

1997年～2007年・民間連携し第二期事業が行われた

1995年には門司港開発株式会社設立

門司港ホテル・海峡プラザの施設を管理する

門司港周辺では地元、事業者、ボランティア団体、行政で構成されたメンバー37団体でイベント開催や景観・環境づくりが行われ年間432件のイベントが開催され賑わい溢れる地区である。

また、関門エリアが「世界の持続可能な観光地」として選出。

本市も自然溢れ景観がよく宝の宝庫であり、その本市のありがたまま生かした観光客誘致のできる仕組みを今後検討していきたい。

福岡県北九州市「北九州市エコタウンセンターについて」

北九州エコタウン事業の特徴

① 産学官の強力な連携のもと事業を進めている。

② 既存産業集積地や学術研究都市が近接している。

③ 広域的に廃棄物を取り扱うことが可能。

④ エコタウン内各企業、市内リサイクル産業、さらに区域内の管理型処分場との連携・活用により安全・確実な処理が可能。

⑤ 情報の公開に務め、市民との双方向のリスクコミュニケーションを進めている。

⑥ 市窓口の一本化による手続きの迅速化を行っている。

⑦ 原料となる廃棄物の確保や再生品の活用を支援している。

⑧ 環境未来ビジネス創出助成制度により、環境分野の社会実装、実証研究、FSを支援している。

エコタウン事業とは

○エコタウン事業は、ある産業から出る全ての廃棄物を新たに他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを目指し、先進的な環境調和型のまちづくりを推進することを目的として、1997年に国で創設されたものです。

北九州市は、長年にわたる「ものづくりのまち」としての産業基盤や技術力、公害克

服の過程で培われた人材・技術・ノウハウ等を活かし、資源循環型社会の構築を図るため、「環境保全政策」と「産業振興」を統合した独自の地域政策として、1997年7月に国から認定を受けた後、「北九州エコタウン事業」を推進している。

公害克服の経験を活かした国際技術協力

○北九州は、公害克服の過程で培った技術を開発途上国の環境改善に役立てようと、1980年代から専門家派遣や研究員受け入れなどを行って来ている。また、市民・企業・自治体が一体となった環境の取り組みは、国際的にも環境改善のモデルとして高く評価されている。

北九州市の環境産業振興の戦略

○教育基礎研究

環境政策理念の確立

基礎研究、人材育成

産学連携拠点

○技術・実証研究

実証研究支援

地元企業のインキュベート

○事業化

各種リサイクル事業、環境ビジネス展開

中小、ベンチャー事業の支援

エコタウン事業これまでの成果

○各種リサイクル法に対応したもの及び独自に進出したものを合わせ、我が国最大級の事業集積

事業数 27事業 実証研究数 67研究 雇用者数 約1060名

総投資額 901億円 民間682億円 国等147億円 市72億円

北九州響灘洋上ウインドファーム

○北九州響灘ウインドウファームでは、北九州市若松区沖の響灘において、南北1～10km、東西11km、東西11kmの海域に設備容量9,600kWの大型風車を25基設置し、最大出力22万kWの発電所として、20年間にわたり発電事業を行うものです。この発電規模は、完成時点では国内最大の洋上風力発電所となる。年間の発電量は約5億kWを見込んでおり、一般家庭約17万世帯分の電力を生み出す事が可能になる見通しとのこと。これは、北九州市で約4割の世帯数に相当しているとのこと。

洋上ウインドウファームでは直径174メートルの風車を視察することができ、この響灘地区からカーボンニュートラルへの新たな挑戦として地域共生の新たな取組として取り組んでいる事に実感いたしました。

福岡県福岡市「スマート農業マッチングプロジェクトについて」
福岡市農林水産局・農業振興・イノシシ等対策担当
福岡市及び福岡市農業について

福岡市は人口166万人であり12年連続95%超が住みやすい街と回答がある。また、若者の割合も政令市1位の街である。福岡市は海や山に囲まれコンパクトな市街地を形成し都市と農業が近く、新鮮で美味しい食べ物に対する満足度も90.7%、自然環境の豊かさも85.3%である。

スマート農業推進取り組みについても実証実験フルサポート「アグリデック」実施され、スマート農業推進協議会も設立されオブザーバーへ九州大学教授が就任され、福岡CITYマッチングプロジェクトを令和6年からスタートする。

課題として、福岡市内農家の課題やニーズと既存のスマート農業のミスマッチ、スタートアップ企業がスマート農業にチャレンジするハードルが高い。

目指す姿とは福岡市内農家の課題やニーズにあったスマート農業技術とのマッチングをする仕組み、スタートアップ企業のチャレンジを後押しする環境が整備されることが今後の姿になる。令和6年度よりスタートしたマッチングプロジェクトでは、生産者への導入促進、農地での実証実験行われ、今後持続できる強い農業を推進し価格保証制度や地域資源活用への支援、イノシシ等の鳥獣被害対策などにより、経営の安定を図っていくとのことであった。

行政視察報告書

令和 7 年 1 2 月 1 7 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 天願浩也

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和 7 年 1 1 月 5 日 (水) ~ 令和 7 年 1 1 月 7 日 (金)
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員 長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委 員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事 務 局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員 1 人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員 2 人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課 (課長・ほか職員 2 人) ・農業振興・イノシシ等対策担当 (課 長・ほか職員 2 人)
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u>
<p>1. 北九州市門司港レトロ地区に関する所見</p> <p>【歴史的資源の「保存」と「活用」の両立および官民連携の深化について】</p> <p>門司港レトロ地区の事例は、単なる文化財の保存にとどまらず、それを核とした「観光まちづくり」として経済効果を生み出している点で、うるま市にとっても極めて示唆に富むものであった。特に、創建当時の姿に復原された JR 門司港駅や旧大阪商船などの歴史的建造物が、フォトウェディングやイベント活用を通じて現代的な価値を創出している点は、当市における城跡や歴史的遺産の活用において大いに参考となる。</p> <p>また、行政主導のハード整備に加え、門司港レトロ倶楽部のような地元団体や民間 DMO がソフト事業 (イベント、誘客) を牽引する「官民連携体制」が確立されている点は特</p>	

筆すべきである。30周年を機に展開された若年層・インバウンド向けのコンテンツ強化や、ナイトタイムエコノミーの推進は、当市における観光客の滞在時間延長や消費単価向上に向けた施策として取り入れるべき視点であると考えます。

さらに、「グリーンディステーションズ」選出に見られるような、国際的な持続可能な観光認証への挑戦は、地域ブランドの向上だけでなく、受入体制の質的向上にも寄与するため、当市においても中長期的な目標として検討すべきである。

2. 北九州響灘エコタウン・次世代エネルギーパークに関する所見

【地域特性を活かした資源循環型社会の構築と再生可能エネルギー施策について】

響灘地区におけるエコタウン事業は、公害克服の歴史を背景に、広大な産業用地と港湾インフラという「地の利」を最大限に活かし、環境産業の集積と再生可能エネルギーの拠点化を同時実現した先進事例である。特に、当市でも課題となっている太陽光パネルの廃棄問題に対し、リサイクル技術の実装が進められている点は、今後の環境行政を考える上で非常に重要な知見となった。

風力発電に関しては、大型風車の導入が進む一方で、台風リスクや海外製部品の調達・保守コスト（LCC）といった課題も明確になっており、同様の気象リスクを持つ沖縄県において導入を検討する際は、保守体制の確保と災害レジリエンスの評価が不可欠であると再認識した。

また、これらの環境施設を「見学・教育の場」として開放し、年間10万人規模の来訪者を受け入れている点は、環境政策を観光・教育資源へと転換する優れたモデルである。当市においても、単なる処理施設ではなく、市民や観光客が環境問題を学べる拠点としての整備を検討することで、施設の付加価値を高めることが可能であると考えます。

3. 福岡市農業政策・スマート農業マッチングプロジェクトに関する所見

【都市型・小規模農業に適したスマート農業導入支援のあり方について】

福岡市の事例は、大規模農家向けの画一的な技術導入ではなく、都市型・小規模農業が抱える具体的な課題に対し、スタートアップ企業との「マッチング」を通じて解決を図るというアプローチが非常に革新的であった。

特に、「スマート農業マッチングプロジェクト」において、市が実証フィールド（ハウス）と資金を提供し、企業と生産者の共創を促している点は、高齢化や担い手不足に悩む当市の農業振興においても即効性の高い施策であると感じた。高価な機器購入を前提

とするのではなく、現場ニーズに即した「使える技術」の実証を優先する姿勢は、予算制約のある小規模農家にとって導入のハードルを下げる鍵となる。

また、いちご「あまおう」のような高付加価値作物のブランド化や、地産地消・食育との連携も、都市近郊農業としての強みを活かした好事例である。当市においても、IT企業や研究機関と連携し、地域特有の作物（モズク、熱帯果樹等）に適した技術開発を支援する「地域実証型」の仕組みづくりを推進すべきであると考えている。

行政視察報告書

令和 7 年 1 1 月 2 7 日

うるま市議会議長 様

うるま市議会 議員 仲程 孝

下記のとおり、行政視察が終了したので報告します。

1. 名 称	市民経済委員会 行政視察
2. 期 間	令和 7 年 1 1 月 5 日 (水) ~ 令和 7 年 1 1 月 7 日 (金)
3. 視 察 先	①福岡県北九州市 ②福岡県福岡市
4. 調査内容	①門司港レトロ地区について・北九州市エコタウンセンターについて ②農業政策について・スマート農業プロジェクトについて
5. 参加者	〔市民経済委員会〕 委員 長：兼本 光治 副委員長：高屋 優 委 員：伊礼 正、大城 直、玉城 政哉、天願こうや、仲程 孝 事 務 局：長嶺 由樹
6. 視察先 対応者	①北九州市 都市ブランド創造局 観光にぎわい部 門司港レトロ課 振興係長、門司港レトロ展望室 指定管理者 職員 1 人、 北九州市エコタウンセンター 次長 ②福岡市議会事務局 職員 2 人、福岡市 農林水産局 総務農林部 農業 政策課 (課長・ほか職員 2 人) ・農業振興・イノシシ等対策担当 (課 長・ほか職員 2 人)
7. 概要及び所見	<u>※写真など挿入可。</u> 市民経済常任委員会にて北九州市及び福岡市を訪ね行政視察を行った。 北九州市、門司港レトロ地区では九州の玄関口としての地理的特性と、かつて日本を 代表する国際貿易港として栄えた歴史を活かして、港を活用した観光地の整備などを 含めた門司港レトロ事業に1988年から着手、歴史的建造物の保存活用や海峡めぐり事 業を通して観光客を誘致、年間107万人程度訪れることになるが、「滞在時間が短く通 過型」「飲食物販施設の不足」などの課題に直面する。 その後、1997年から第2期計画として、物産館、駐車場、ホテルなどを整備、2007年 には年間観光客220万人と倍増に成功する。 さらに門司港レトロ地区の大きな特徴として民間と連携した取組が挙げられ、1995 年に設立された門司港開発株式会社では、ホテル管理などのハード面を担い、同じく 1995年に設立された門司港レトロ倶楽部は地元住民・事業者、ボランティア団体など当 初5団体で設立され、現在37団体まで増加し様々に活動している内容は特筆すべき であり、イルミネーションの設置管理、80万人を動員する海峡花火大会など年間イベ ント数432件は圧巻の数字であると感じた。

また、鉄道事業との連携にも着手し、観光列車の運行やレトロで趣があり、国の重要文化財に指定されている門司港駅前広場は結婚式の開催やフォトウエディングの人気スポットになっており若者へのアピールにも成功した事例と言えるだろう。

今後は海峡を挟んだ山口県下関市とも連携し、より広域化した「まちのエンタメ化」を図る取組も紹介され、今後も注目していきたいと感じさせる視察となった。

同じく北九州市エコタウンセンターについて視察を行い、SDGs未来都市に指定された北九州市では、1960年代に深刻な産業公害をもたらした反省から、公害問題の克服に積極的に取り組み、現在は国から「星空の街」に選定されるまでに改善された実績があり、公害克服の経験を活かした国際技術協力は環境改善のモデルとして、高く評価されている。

市が建設し、現在は指定管理者制度を活用し、北九州エコタウンネットワークが運営するエコタウンセンターでは最初に自動車のリサイクル工場を見学し破砕機で破壊すれば速やかに解体できる自動車についても、使用できる部品の回収や、ガラス、プラスチック、銅などに手間をかけて分解し、使用可能な部品などをネット販売している様子を覗うことができた。

次に訪れたOA機器のリサイクル工場見学でも人の手を使い細かな部品等を外している作業が印象的で、事業とは言え、なるべくリサイクルに回すという真摯な作業を垣間見ることができた。

また、OAリサイクル工場では授産施設と連携し就労スキル習得や自立をサポートしているとの報告があり、市内の雇用対策の一翼を担っていることも評価したい。

洋上風力発電の現場では広大な洋上に25基もの大型風車が設置された圧巻の景色に触れることができ、国内最大の洋上風力発電施設では年間の発電量、約5億KWhは一般家庭約17万世帯分の電力を生み出すことが可能であり、まさに次世代エネルギーの可能性を感じた。

このように、社会貢献が重要と感じたリサイクル事業と脱炭素を目指す次世代エネルギー事業に関しての北九州市の取組は素晴らしいと感じた視察となった。

翌日は福岡市に向かい、スマート農業について学ぶ機会を得た。

人口166万人を超え、政令指定都市でもある福岡市において、農業とは？のイメージであったが、市内の農地面積は横ばいで、農業離れを防ぐ一つの手段として、スマート農業推進の取組に着手している。

しかしながら、市内農家の課題や既存のスマート農業とのミスマッチがあり、解決策として、全国からスマート技術、アイデアを募集、令和6年度から市内生産者とスマート農業企業のマッチングプログラムプロジェクトを実施、生産者への導入促進や農地での実証実験を行い、実際に企業の技術紹介や市内農家と企業の交流会を行っている。

企業15社、計80人の参加者との報告であるが、やはり生産者参加の呼びかけには苦慮しているらしく、マッチングの入り口としては課題であると認識を一つにした。

今後はさらに生産者とスマート農業技術のマッチングする仕組みづくりに努め、初期投資に費用のかかるスマート農業を創業の段階から後押しできる環境づくりに取り組むたいと担当者からの発言があった。

今回の視察では観光・環境・農業とそれぞれ違うテーマながら、所管委員会の課題に沿った内容であると感じ、規模の違いはあれ、行政が関わる街づくりに大きく寄与するものである。

詳細に説明をしていただいた、北九州市・福岡市関係者に対しこの場を借りて感謝を申し上げて、行政視察報告としたい。